

Rotary Club of

Kangou

国際ロータリー第2570地区
川越ロータリークラブ会報

vol. 44

会員数 103名	免除出席者 4名	正会員出席者 50名	出席者 64名	早退 1名	出席率 53.47%
----------	----------	------------	---------	-------	------------

プログラム

点鐘 (12:30) / ロータリーソング (我らの生業・R-O-T-A-R-Y) / ビジター・お客様紹介 / 卓話講師紹介 / 会長の時間 / 幹事報告 / 委員長報告 / ニコニコボックス / 出席報告 / 卓話 / 点鐘 (13:30)

< 司会：島村 SAA >

会長の時間

2022-23年度 副会長 片山幸雄

< ビジター・お客様紹介 >

担当：研修委員会

講師：坂口孝研修委員長

演題：次年度、青少年交換を受諾するにあたっての危機管理
< 会長挨拶 >



会長の時間です。副会長ではありませんが何とかお話ししてみたいと思います。私達ロータリアンは、例会の始まりに必ずロータリーソングを斉唱しております。さてロータリーソング斉唱が始まった頃のロータリーはどんな状況だったのか触れてみたいと思います。ロータリーソングの提唱者はロータリークラブが発祥したシカゴロータリークラブの会員でありますハリー・ラグルスと言われている。

さて発足して間もないシカゴクラブですが、会員同士の対立が激しくなって、3代目の会長に就任したポール・ハリスがロータリー創立者でありながら会長辞任に追い込まれるという状況でした。これを融和させようとハリー・ラグルスがスタートさせたのが例会でのロータリーソング斉唱でした。私は、当時どんな曲を斉唱したのか少しは気にしているのですが判っておりません。少なくともR・O・T・A・R・Yではありません。この曲の趣旨はHe Profits Most Who Serves Bestですが、これはアーサーフレデリックシェルドンによります。シェルドンのシカゴロータリー加入は1908年です、この1年後になります。ハーバートテイラー主唱の「四つのテスト」も同様まだ現れておりません。

ところで発足して間もないシカゴクラブの会員同士の対立とはどんなことだったのでしょうか。創立者ポール・ハリスは、シカゴクラブの3代目の会長に就任に際し3

つの目標を掲げました。1. シカゴクラブの増強。2. RCの他域への拡大。3. 社会奉仕の推進。この3点です。これに対しクラブ内の反応はどうだったのでしょうか。実は3番目に挙げた社会奉仕の推進これが彼の命取りになったのです。当時のシカゴクラブの実情を言えば会員同士の取引であります互恵取引が盛んになされておりました。会員相互の取引実績が葉書に書かれ例会で発表され、「騙すより騙されるほうが悪い」というシカゴの当時の世情のなかで会員同士で信頼できることもあり、クラブ会員は互恵取引で大いに潤っていたのです。

ポール会長の掲げた社会奉仕の推進ですが、この時期シカゴクラブがシカゴ市内に公衆便所を無償設置したいという事実から、既に社会奉仕の理念がロータリーに存在してはいたのですが、互恵取引で大いに潤っていた会員達にとって社会奉仕とは何ぞや、ちっとも儲かりそうにないじゃないか、これが本音だったでしょう。かくして互恵取引派と社会奉仕推進派の対立が激化していったのでした。実は提唱者ラグルスですが彼は互恵取引派のボスとも言われています。そのラグルスがクラブ内を融和させようとスタートさせたのが例会でのロータリーソング斉唱でした。結局ポール・ハリスは会長を辞めました。このあたりの経緯は今日は時間がありません。別の機会に譲ります。ロータリーソング斉唱はロータリー発足間際にスタートしていたのですね。

ビジター・お客様紹介

山下茂次年度第1グループガバナー補佐
(東松山むさしRC)

今年度東松山むさしRC会長で次年度第1グループガバナー補佐をやります。ロータリーは親睦と地域の奉仕、最終目標は世界の親善と平和、もの凄く素晴らしいと思います。例えばウクライナの戦争やトルコの地震等を見ると何か自分も役立ちたいと思うのですがすぐには出来ずにはなかなかない。でもロータリーは世界的な組織でロータリー財団やロータリーに寄付することによってその地域にできる。田舎にいながらにして世界に関わりを持っている。凄く素晴らしいと思います。私の考えとしては死ぬ前の日まで仕事して歩いてロータリアンでいる、これで人生終わりたいと思っています。ロータリアンとして頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

幹事報告

2022-23年度 幹事 野溝 守



< 配布物 >

・ロータリーの友6月号、友要約版、会報、卓話資料、ハイライト米山279

< お知らせ >

・最終例会のご案内 6月27日(火) 18時点鐘 オペラミニコンサート
ご家族多数の参加をお待ちしております。

委員長報告 (公共イメージ委員会 小城副委員長)

※ロータリーの友6月号、ロータリーの友要約版

ニコニコボックス (小峰 利久委員)

- 次年度地区第1グループガバナー補佐山下茂様(東松山むさしRC)ようこそ川越ロータリークラブ例会にいらっしやいました。次年度はお世話になります。よろしくお願ひ致します。(会長、幹事)
- 片山副会長、本日の例会点鐘、会長の時間よろしくお願ひ致します。久しぶりにシェルドンのお話でしょうか！(会長、幹事)
- 坂口孝研修委員長、本日の卓話よろしくお願ひ致します。(会長、幹事)
- 本日の例会は石井会長はお休みで、私が点鐘させてもらいました。5年ぶりの例会点鐘でした。(片山)
- 次年度第1グループガバナー補佐山下茂さん、本日は川越クラブへようこそ。例会を楽しんで下さい。(片山、西澤、坂口、吉澤、小高、栗原、西川、相原)
- 本日卓話担当です。宜しくお願ひします。(坂口)
- 研修委員長坂口さん、本日の卓話頑張ってください。(片山、西澤、小杉、相原、住谷、吉澤、今泉(清)、水村、近藤、小高、栗原、西川、齊藤(智)、小城、若林、和田、鈴木(壮)、小川、五十嵐、岩堀)
- 早退1名(敬称略) 合計38,000円

卓話 (研修委員会)



講師：坂口孝研修委員長

演題：次年度、青少年交換を受諾するにあたっての危機管理

次年度石井会長の肝いりで青少年交換を行います。国際ロータリーでは青少年交換をうけるにあたり危機管理について十分会員の皆様に周知しておくようにと指示がございましたので丁度

よい機会かとお話しをさせていただきます。青少年交換は地区同士での交換となります。本来は地区というのは事業をするところではないのですが、国際ロータリーのプログラムというのがございます。その中の一つのくくりとして青少年プログラムがあります。青少年プログラムの中にはローターアクト、インターアクト、RIYEM、そして青少年交換があります。これは当然クラブが主体にはなるのですが、クラブを超えて地区レベルでも活用しようというところがございます。地区レベルになると国際ロータリーがからんできます。岩堀年度では岩堀さん石井さん、カウンセラーの西沢さんがタッグを組み成功に持っていかれました。

地区には危機管理委員会というのがあります。これは青少年交換をやる上で絶対に必要です。国際ロータリーが青少年交換をやるにあたっては地区に危機管理委員会をおきなさいと指示しております。危機管理委員会ではロータリアン同士、クラブとロータリアン、クラブ間には取り扱いません。ほとんどが青少年関係としてでございます。事故、ハラスメントは全て危機管理委員会となってきます。

青少年交換が何かは是非次年度に入って青少年奉仕委員会で話しをして頂きたい。次年度はおそらく8月位に台北から来ると思います。次年度のカウンセラーは吉澤さんでございます。カウンセラーは青少年交換の中で非常に大きな役目を持ちます。誰でも良いというわけにはいきません。青少年交換をやるについては地区を法人化しなさいという指定があります。ところがうちの地区を始め日本34地区ほとんどになってないと思います。全国を見て法人化は進んでいるものなかなかできないといったところが現状です。国際ロータリーはどうしているかというところと何らかのかたちで法人化してくださいというのがあります。その為に作られたのが一般社団法人の国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構(RIYEM)というものです。ここに我々34地区が加盟して保険に入ります。事故等の損害賠償は全てRIYEMが行います。と同時に危機管理の徹底、青少年の扱いはRIYEMが地区に対して指導してきます。指導された青少年交換委員がクラブに対して指導をするということです。その辺をご留意頂いてすすめて頂きたいと思います。

国際ロータリーにはゼロ容認方針というものがございます。二つの言葉だけ覚えておいてください。ゼロ容認、72時間ルール。セクハラだけでなくパワハラ、モラハラ等色々あるのですが、どういう風に対処していくか。ロータリーでは疑いのあるものは全部取り上げるとなっています。では全て罪になってしまうのかが一番問題になります。それはなりません。国際ロータリーが言っているのは一回取り上げてください、クラブ内ではなくまずは青少年交換委員会委員長に報告してくださいということです。青少年交換委員会委員長に報告書をあげるのが筋であります。報告書はRIYEMにひな形があります。それを青少年委員会にあげて、そこから危機管理委員長にあげると同時にRIYEMにも報告します。危機管理委員長は審議する前にその年度のガバナーに報告するというルールがあり、ガバナーから国際ロータリーに報告するまでの間に72時間以内にしなさいというのがあります。この時点ではそのメンバーにはなんら罪はございません。国際ロータリーはこういう事案があったという報告があっただけですからその後十分時間をかけて危機管理委員会で調査やヒアリングをするわけです。当然当事者を両方呼び当事者同士で事なきを得ましたとなればその報告を最後RIにあげれば何もないということです。怖がらずにあげてくださいというのが国際ロータリーのルールでございます。だいたいハラスメントが起きているのはお酒の席です。青少年の保護方針の中で未成年はお酒の提供される席に呼んではいけないというルールがあります。それだけでクラブがルールから逸脱していると国際ロータリーは判断します。次年度は本質である日本文化を学んでもらう、理解を持ってもらうことに力を入れ、あとはメンバーとの交流をして一年間を過ごしたいと思っています。